

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	A・B・C肝炎	HPA 2009; 3(34); 2009 August 28 [Sentinel surveillance of hepatitis in England, annual report for 2008]	英国イングランドの肝炎調査(sentinel surveillance)における2008年の結果報告が示された。この調査は2002年に始まり、2008年にはイングランドの人口の約1/3が対象となっている。 ・急性A型肝炎感染のマーカーとしてanti-HAV IgM (hepatitis A-specific IGM antibody)検査が27,163名を対象に行われた結果、0.6%が陽性を示し、検査を受けたヒトの平均年齢45.8歳に対し、陽性を示したヒトの平均年齢は38.2歳であった。 ・全対象者の25.3%にあたる62,031名が妊娠中のHBsAg (Hepatitis B surface antigen)検査を受け、0.6%が陽性であった。375例のHBsAg陽性妊婦の96.5%についてe-antigenを調査した結果、51例(14.1%)がHBeAg陽性であった。妊娠女性を除いた183,412名におけるHBsAg検査の結果、1.8%が陽性であり、このうち92.2%にあたる3119名についてanti-HBcIgMを検査した結果、626名(18.5%)が陽性であった。 ・150,775名についてanti-HCV (hepatitis C-specific antibodies)を検査した結果、3.7%が陽性であり、North Westでの陽性率が高かった。anti-HCV陽性であった5,567名のうち3,721名(66.8%)についてPCRによるHCV RNAを検査した結果、68.6%にあたる2,552名がPCR陽性であった。
2	C型肝炎	HPS Weekly Report 2009; 43(2009/45); 2009 November 11 [Surveillance of known hepatitis C antibody positive cases in Scotland]	2009年4-6月、英国スコットランドにおいて新たに486症例のHCV抗体陽性症例が確認され、66%が男性、33%が女性であり、27%が20-29歳、37%が30-39歳、22%が40-49歳、10%が50-59歳および60歳以上は2%であった。2009年6月30日現在、全体では26347例がHCV抗体陽性と診断されており、スコットランド人口の223人に1人がHCV抗体陽性と診断され、スコットランドで未診断のHCV抗体陽性症例数は診断された症例数を上回ると推定された。
3	C型肝炎	ProMED-mail 20091214.4243	カザフスタンにおいて、C型肝炎に感染した白血病の子供を持つ両親のグループが、子供達に汚染された血液を輸血した責任は共和国輸血センターにあると声明した。輸血センター当局は、作業に落ち度はなく、本事例を確認するための適切な手段をとると対応した。両親のグループは、共和国輸血センターによる献血者の適切なテストがされていないために、約150人の小児がC型肝炎に感染したと主張し、センター長は、内部調査を行っているとしているが、両親らは司法長官および警察の参加を要求している。
4	HIV	CDC/MMWR 2009; 58(46); 2009 November 27	2008年、ニューヨーク(NY)市内4箇所(STD (sexually transmitted disease)クリニック)でp-NAAT (pooled nucleic acid amplification test)の検査を行った結果、17例をAHI (Acute human immunodeficiency virus infection)と診断した。16例はMSM (men who have sex with men)であり、9例は現在もしくは過去に梅毒歴のある入院患者であった。NY市の調査では53例がAHIであり、77%はMSMであった。AHIは先の4クリニックでのHIV診断の9%であったが、2008年のNY市ではHIV診断された3,635例のわずか1.9%であり、新規にHIV感染となった4,762例の1.5%であった。特にMSM間におけるAHIのスクリーニングは、新たなHIV感染が起きている状況を特定し、また、感染確立の高いヒトの特定は、更なる伝播を防止するよう努力を求めることに役立つ。
5	インフルエンザ	CDC FluView 2009-2010 Influenza Season Week 1 ending January 9, 2010	米国CDCのインフルエンザ部門からの週刊報告であり、week 1(2010年1月3-9日)における国内インフルエンザ活動は減少し続けている事が報告された。ヒトにおける新規インフルエンザAウイルス感染1例の報告もあり、ウイルスはブタインフルエンザA(H3N2)と確認され、2009年11月に調査が行われた。感染者のブタとの接触は明らかではなく、ヒト-ヒト感染を疑う証拠は認められていない。
6	インフルエンザ	CDC FluView 2009-2010 Influenza Season Week 45 ending November 14, 2009	米国CDCはweek 45(2009年11月8-14日)における国内インフルエンザ活動はわずかに減少している事を報告した。検査が行われ、インフルエンザ部門に報告された検体3,106(28.8%)がインフルエンザ陽性であり、CDCに報告されたインフルエンザAウイルスの99%以上が2009インフルエンザA(H1N1)ウイルスであった。また、肺炎およびインフルエンザに起因する死亡の割合は、7週連続でepidemic thresholdを上回った。インフルエンザに関連した21例の小児の死亡のうち、15例は2009インフルエンザA(H1N1)ウイルス感染に関係し、6例はサブタイプ不明のインフルエンザA型と関連があった。インフルエンザ様症状で来院した患者の割合は5.5%であり、全国基準の2.3%を上回った。
7	インフルエンザ	CDC FluView 2009-2010 Influenza Season Week 50 ending December 19, 2009	米国CDCはweek 50(2009年12月13-19日)における国内インフルエンザ活動は減少し続けている事を報告した。検査の後、インフルエンザ部門に報告された検体306(6.9%)がインフルエンザ陽性であり、CDCに報告されたインフルエンザAウイルスのすべてが2009インフルエンザA(H1N1)ウイルスであった。また、肺炎およびインフルエンザに起因する死亡の割合はepidemic thresholdを下回った。インフルエンザに関連した9例の小児の死亡のうち、8例は2009インフルエンザA(H1N1)ウイルス感染に関係し、1例はサブタイプ不明のインフルエンザA型と関連があった。インフルエンザ様症状で来院した患者の割合は2.9%であり、全国基準の2.3%と同レベルであった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
8	新型インフルエンザ(H1N1)	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 November	2009年11月、FDAは企業向けガイダンス案、「パンデミック(H1N1)2009ウイルスに対応した供血者の適合性、血液製剤の安全性および血液供給の保全について評価するための勧告」を発表した。勧告(Recommendation)の内容は、 A. 交代要員の教育 B. 供血者の適格性、供血延期および製品管理 供血者の適格性:原則、供血者の治療歴は採血時に収集されるが、全血もしくは原料血漿用では、供血日に収集すること。 供血延期:パンデミック(H1N1)2009インフルエンザ感染又は疑いのある患者、もしくはインフルエンザ様症状を呈する患者との接触のあった供血者について、利用可能なデータは供血延期を支持していない。供血者が供血日に健康であることを確保するため、パンデミック(H1N1)2009インフルエンザ感染又は疑いのある供血者は、解熱剤の利用なく解熱し、無症状となつてから少なくとも24時間の供血延期をすること。パンデミック(H1N1)2009ウイルスに対する生もしくは不活化インフルエンザワクチンを接種した後、もしくは、予防目的で抗ウイルス薬であるオセルタミビルおよびザナミビルを使用した後の供血者について、利用可能なデータは供血延期を支持していない。しかし、パンデミック(H1N1)2009インフルエンザ感染又は疑いのために抗ウイルス薬を服用した供血者は、上述と同様の状態から少なくとも24時間の供血延期をすること。 血液製剤の管理:供血後48時間以内にパンデミック(H1N1)2009の感染又は疑いがある、もしくは、インフルエンザ様症状を呈したという供血後の情報を受けた際には、Medical DirectorはSOP(標準操作手順書)に従い、既に供血された製品の安全性を評価すること。なお、この勧告は、輸血用全血および血液成分の献血に適用される。 C. 承認された申請内容の変更
9	新型インフルエンザ(H1N1)	IASR 2009 December 25	2009年4月にブタ由来A/H1N1新型インフルエンザウイルス(A/H1N1pdm)が発生し、6月には、日本・香港・デンマークでオセルタミビル耐性A/H1N1pdm株が検出され、国内では22例の報告がある。19例は薬剤投与例であり、薬剤の選択圧によって耐性株が発生し、2例は、薬剤投与のない事例(1例は服用履歴不明)であり、耐性菌がヒトからヒトへと感染したと考えられた。これらの耐性株はザナミビルには感受性があり、また抗原的には今期新型ワクチン株に類似していた。国内外において、これら耐性菌が広範囲に広がった事例の報告はないが、英国・米国では耐性株の院内感染が報告されており、発生動向に注意が必要である。
10	新型インフルエンザ(H1N1)	・ProMED-Mail 20090910.3192 ・Nature Biotechnology 2009: 27(9) 797-9	パンデミックインフルエンザA(H1N1)2009ウイルスは、季節性インフルエンザウイルスより気道細胞深部に感染するため、感染した患者をより重篤な合併症へと導きやすい可能性があることが示唆された。第一線の医師からの報告を、初めて実験結果から裏付ける報告である。この研究では、パンデミックH1N1ウイルス(Cal/09およびHam09)および季節性ヒトH1N1ウイルス(Mem96)のレセプター特異性を糖鎖マイクロアレイを用いて調べた結果、レセプター結合特異性に差異が認められ、Cal/09およびHam09は α 2-6-linked-SGにのみならず α 2-3-linked-SGにも多く結合した。 α 2-3-linked-SGは、下気道細胞に比較的多く分布していることから、パンデミックインフルエンザA(H1N1)2009ウイルスは季節性インフルエンザウイルスより肺の奥にある細胞に到達する可能性が示された。
11	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 September 25 (8465)	英国におけるパンデミックインフルエンザA H1N1 (2009): 発生日 2009年8月18日、最初の確定日 2009年9月16日、報告日 2009年9月25日、原因 パンデミックH1N1ウイルス(2009)。2009年パンデミックH1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生し、2009年8月18日に北アイルランドTyrone郡Cookstownで、疑い例はブタ2900頭、確定例はブタ1950頭、死亡例30頭であり、2009年9月22日に同Londonerry郡Bellaghyでは疑い例はブタ145頭、確定例はブタ4頭であった。
12	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 September 25 (8691)	ノルウェイにおけるパンデミックA/H1N12009ウイルス: 発生日 2009年10月9日、最初の確定日 2009年10月10日、報告日 2009年11月25日、原因 パンデミックA/H1N1 2009ウイルス。2009年10月12日に報告後の追跡調査5回目の報告である。10のアウトブレイクが発生し、ブタの分娩群から仕上げ期の群が感染したアウトブレイクは2009年10月16、23、20日にNORD-TRONDELAGEで、肥育群が感染したのは11月17日にはOSTFOLDであり、繁殖群が感染したアウトブレイクは11月17日にAKERSHUSで、10月21日、11月10および17日にNORD-TRONDELAGEで、11月10日にROGALANDで発生した。
13	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 September 25 (8789)	韓国におけるパンデミックインフルエンザH1N1: 発生日 2009年12月14日、最初の確定日 2009年12月14日、報告日 2009年12月23日、原因 パンデミックインフルエンザH1N1ウイルス。15のアウトブレイクが発生し、2009年12月14および16日にKYONGSANG-BUKDOで9ヶ所のアウトブレイクが発生し、12月16日にKYONGSANG-NAMDOで、12月16および18日にはCHOLLA-NAMDOで、12月16日にはCHEJU-DOで、12月14および16日にはKYONGGI-DOでアウトブレイクが発生した。
14	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 September 29	アイルランドにおけるパンデミック A/H1N1 2009ウイルス: 発生日 2009年9月25日、最初の確定日 2009年9月29日、報告日 2009年9月29日、原因 パンデミックインフルエンザA/H1N1ウイルス。2009年9月25日にアイルランドCORK Kilworthでアウトブレイクが発生し、疑い例はブタ3050頭、確定例はブタ40頭、死亡例0頭であった。
15	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 October 12	ノルウェイにおけるパンデミック A/H1N1 2009ウイルス: 発生日 2009年10月9日、最初の確定日 2009年10月10日、報告日 2009年10月12日、原因 パンデミック A/H1N1 2009ウイルス。2009年10月9日にノルウェイNORD-TRONDELAGE Asenでアウトブレイクが発生し、疑い例はブタ850頭、確定例はブタ1頭、死亡例0頭であった。
16	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 October 16 (8528)	アイルランドにおけるパンデミック A/H1N1 2009ウイルス(追加第1報): 発生日 2009年9月25日、最初の確定日 2009年9月29日、報告日 2009年10月16日、原因 パンデミックインフルエンザA/H1N1ウイルス。2009年9月25日にアイルランドCAVAN Kilmoreでアウトブレイクが発生し、疑い例はブタ2994頭、確定例はブタ65頭、死亡例1頭であった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
17	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 October 16 (8536)	ノルウェーにおけるパンデミック A/H1N1 2009ウイルス(追加第2報): 発生日 2009年10月9日、最初の確定日 2009年10月10日、報告日 2009年10月16日、原因 パンデミック A/H1N1 2009ウイルス。2009年10月10日にノルウェーNORD-TRONDELAG Aasenでアウトブレイクが発生し、疑い例はブタ651頭、確定例はブタ1頭、死亡例0頭であった。
18	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 October 21	日本におけるパンデミックインフルエンザH1N1(2009): 発生日 2009年10月2日、最初の確定日 2009年10月21日、報告日 2009年10月21日、原因 パンデミックインフルエンザH1N1 2009。2009年10月2日に大阪で2009/パンデミックH1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生した。疑い例はブタ1000頭、確定例はブタ10頭、死亡例0頭であった。
19	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 October 24 (8594)	アイスランドにおけるパンデミックインフルエンザ A/H1N1 ウイルス: 発生日 2009年10月24日、最初の確定日 2009年10月27日、報告日 2009年10月16日、原因 パンデミック インフルエンザ A/H1N1 ウイルス。2009年10月24日にアイスランドGULLBRINGU Minni-Vatnsleysaでアウトブレイクが発生し、疑い例はブタ4500頭、確定例はブタ10頭、死亡例0頭であった。
20	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 October 24 (8640)	アイスランドにおけるパンデミックインフルエンザ A/H1N1 ウイルス(追加第1報): 発生日 2009年10月24日、最初の確定日 2009年10月27日、報告日 2009年11月11日、原因 パンデミック インフルエンザ A/H1N1 ウイルス。2009年11月6日にアイスランドEYJAFJARDAR Hraukbaerでアウトブレイクが発生し、疑い例はブタ3300頭、確定例はブタ9頭、死亡例0頭であった。
21	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 October 29	ノルウェーにおけるパンデミック A/H1N1 2009ウイルス(追加第3報): 発生日 2009年10月9日、最初の確定日 2009年10月10日、報告日 2009年10月29日、原因 パンデミック A/H1N1 2009ウイルス。2009年10月11-19日にノルウェーNORD-TRONDELAGのskogn, Trondelag, verdal, Levanger, SelbuおよびFrosta, ROGALANDのTimeおよびHommersak, BUSKERUDのSpikkestadで総計19のアウトブレイクが発生し、総計で疑い例はブタ10068頭、確定例はブタ161頭、死亡例0頭であった。
22	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 November 12	ノルウェーにおけるパンデミック A/H1N1 2009ウイルス(追加第4報): 発生日 2009年10月9日、最初の確定日 2009年10月10日、報告日 2009年11月11日、原因 パンデミック A/H1N1 2009ウイルス。2009年10月19-24日にノルウェーNORD-TRONDELAGのFjeldstadおよびLeangen V, ROGALANDのTunheim, AKERSHUSのBjerkestad, HEDMARKのIlseengで総計5のアウトブレイクが発生し、総計で疑い例はブタ2366頭、確定例はブタ30頭、死亡例0頭であった。
23	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 November 30	フィンランドにおけるパンデミックインフルエンザ A/H1N1 2009: 発生日 2009年11月18日、最初の確定日 2009年11月25日、報告日 2009年11月30日、原因 パンデミック A/H1N1 ウイルス。2009年11月18日にアイスランドLANSI-SUOMI Teuvaでアウトブレイクが発生し、疑い例はブタ950頭、確定例はブタ800頭、死亡例0頭であった。
24	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 December 4	イタリアにおけるパンデミックA/H1N1ウイルス: 発生日 2009年11月23日、最初の確定日 2009年11月27日、報告日 2009年12月4日、原因 パンデミックA/H1N1ウイルス。2009年11月23日にLOMBARDIA MILANO NERVIANOでパンデミックA/H1N1ウイルスのアウトブレイクが発生した。疑い例はブタ1250頭、確定例はブタ375頭であった。
25	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 December 10	メキシコにおける2009/パンデミックH1N1インフルエンザ: 発生日 2009年4月30日、最初の確定日 2009年5月1日、報告日 2009年12月10日、原因 2009/パンデミックH1N1インフルエンザ。2009年4月30日にQUERETARO COLONで2009/パンデミックH1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生した。疑い例はブタ360頭、確定例はブタ2頭であった。
26	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 December 23 (8573)	日本におけるパンデミックインフルエンザH1N1(2009): 発生日 2009年10月2日、最初の確定日 2009年10月21日、報告日 2009年10月27日、原因 パンデミックインフルエンザH1N1 2009。本報告において新しいアウトブレイクの発生はなく、2009年10月21日に報告後の追跡調査1回目の報告である。
27	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 December 23 (8790)	英国におけるパンデミックインフルエンザA H1N1(2009): 発生日 2009年8月18日、最初の確定日 2009年9月16日、報告日 2009年12月23日、原因 パンデミックH1N1ウイルス(2009)。2009年12月22日にイングランドNorfolkで2009/パンデミックH1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生した。疑い例はブタ2004頭、確定例はブタ1124頭であった。
28	トリインフルエンザ	Genomics Proteomics Bioinformatics 7(1-2) 2009 June	2006年2月、12日間に亘り、インドMaharashtraの近隣2地域でニワトリに高病原性トリインフルエンザウイルスH5N1型のアウトブレイクが発生した。本研究では、インドで分離された2つのH5N1型のNA(neuraminidase)遺伝子について遺伝的相同性を検討した。NA遺伝子の病原性の解析結果は、2つのアウトブレイクから分離されたH5N1型は起源が異なり、最初の株は2004年にベトナムでニワトリから分離された株と近いと分類され、二番目は2006年にイタリアおよびイランでブタから分離された株と似ていた。また、アミノ酸配列を解析した結果、インドで分離された2つには配列に違いがあり、二次的な構造変化も報告された。上述したインドの2つのアウトブレイクから分離されたH5N1株は、遺伝的に異なることが本研究より判明した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
29	トリインフルエンザ	PLoS ONE 2009; 4(7): e6277 2009 July	インフルエンザウイルスのNA(neuraminidase) stalk領域は多様性があり、毒性(virulence)と関連している。N1サブタイプインフルエンザAウイルスのNA stalk領域は6種類に分類され、その中のNA-wtはstalk領域の20アミノ酸(49から68番目)が欠損しており、2000年にH5N1インフルエンザウイルスで見つかった。この特殊なNA stalkモチーフは、2000-2007年に分離されたH5N1において漸増し、2004-2007年にヒトから分離された173すべてのH5N1に検出された。この特殊なNA stalkモチーフを持つ組換えH5N1ウイルスは、ニワトリとマウスにおいて最強の毒性(virulence)および病原性(pathogenicity)を有し、他のstalkモチーフとの組換えウイルスは弱毒化を示した。本結果は、この特殊なstalkモチーフが2000年以降のH5N1株の強毒性と病原性に起因したことを示唆し、特にヒトからの分離株にこの出現が増えている事に注意が必要である。
30	トリインフルエンザ	国際獣疫ファイル 7; 鶏卵肉情報 2009 June 25	高病原性トリインフルエンザなどの伝染病の発生における衛生害獣及び衛生害虫の関わりを考えると、ウイルスの傳播にはネズミ、ハエ、カラス、ハト、アライグマなどの野生生物だけでなく、徘徊中のイヌやネコが関与している可能性が高い。養鶏場では通常の飼養衛生管理に加えて、衛生害獣及び衛生害虫の駆除や野鳥及び野生動物の鶏舎への侵入を防ぐ対策が必要である。
31	トリインフルエンザ	農林水産省 プレリリース 2009 October 16	2009年10月16日、埼玉県越谷市宮内庁鴨場のアヒル・アイガモから低病原性であるH3亜型トリインフルエンザが確認された。なお、本ウイルスはH5、H7亜型のような家畜伝染病予防法における法定伝染病ではなく、届出伝染病である。また、飼育者に対し、発生家禽の隔離等の防疫措置を実施し、家禽等への予防接種を実施した。
32	アルボウイルス	FDA/Vaccines, Blood&Biologics (Public Workshop 2009 December 14-15)	FDAは「アルボウイルスの出現:輸血および移植の安全性への脅威の評価」と題した公開ワークショップ(2009年12月14-15日)を開催した。目的はリスクを評価し、米国内における輸血、点滴、移植(implantation/transplantation)を介したアルボウイルスの感染事象を最小化するための取り組みを議論する事であり、1)アルボウイルスの生態と発症機序 2)米国におけるアルボウイルスベクターと宿主の疫学および阻止 3)アルボウイルスヒト感染の検出と予防 4)米国内におけるアルボウイルスの輸血、埋め込み、移植(Implantation/transplantation)による感染 5)アルボウイルスの輸血感染リスクを軽減するためのドナーテストや病原性不活化などの可能な取り組み等が議題となった。
33	ウエストナイルウイルス	CDC 2009 December 8	米国CDCは、2009年12月8日現在の、米国内における2009年ウエストナイルウイルス活性に関する状況を報告した。35州における脳炎/髄膜炎、発熱、その他の臨床症状を呈した患者数および死亡数が示された。カリフォルニア、コロラドおよびテキサス州が全総数の約半数であった。
34	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2009; 58(45); 1263-1267	2008年10月、米国Louisiana Department of Health (LDH)は、心臓移植を受けた患者にWest Nile neuroinvasive disease (WNND)が疑われたとの報告を受けた。この感染が臓器提供者由来か、もしくは臓器提供者が受けた輸血由来かを調査した結果、2例の輸血によるWNV (West Nile virus)感染が共通する供血者から生じた事が分り、1例は臓器移植により(臓器提供者が受けた輸血を介して)WNNDを発症し、もう1例の無症候WNV 感染例は直接の輸血による感染であったと判明した。また、血液スクリーニングを行った研究所が用いた献血に際して行われたWNV検出の基準は、他の血液収集センターで用いる基準より緩かった事が分かった。WNV陽性献血者を検出するため、血液センターは可能な限り高感度なスクリーニング基準を用いる事、また、地域におけるWNV高活動期には、スクリーニングの結果について近隣の血液センターと十分に情報交換を行う事が重要である。
35	ウエストナイルウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 November	2009年11月、FDAは企業向けガイダンス、「輸血目的の全血および血液成分の供血者からのWNV(West Nile Virus)感染リスクを減じるためのNAT(Nucleic Acid Tests)の使用」を発表した。勧告(Recommendation)の内容は、 A. 検査、ユニット管理および供血者管理:1. 輸血目的の全血および血液成分の供血サンプルにつき、承認されたNAT (MP-NATもしくはID-NAT)を用いてWNVの通年検査を行うこと。WNVの高活動地域ではID-NAT (individual donation)を推奨する。2. MP-NATによる検査の結果、陰性であったミニプールを構成していた検査サンプルのユニットは出荷できる。ミニプールがNAT陽性を示した場合には、ID-NATを用いて各サンプルを検査し、陽性を示したユニットを特定すること。a. すべてのID-NATで陰性であったユニットは出荷できる。b. 個別献血が陽性であった場合、そのユニットは廃棄し、120日間の供血延期とし、該当献血から120日間の期間における製品の回収および貯留を推奨する。3. ID-NATを用いた検査を実施する場合には、A1. 2aおよび2bの手順に従う事を推奨する。 B. MP-NATからID-NATへの切り替え:1. 血液を収集する地域でのWNV活動が高いことを定義する基準を確立し、バリデートすること。2. 血液を集める地域でのWNV活動が高い間、MP-NATからID-NATへ切り替える閾値を設定し、また、活動が収まった際にMP-NATに戻す閾値を設定すること。3. 実行可能になり次第、ただし、閾値到達から48時間以内に、MP-NATからID-NATに切り替える。4.この決定に関するSOPを作成し、従うこと。 C. 検査実施の報告 D. 輸血目的の全血および血液成分の表示
36	ウエストナイルウイルス	ProMED-mail 20091106.3836	2009年イタリアVeneto地方で、2008年の6例に引き続き2009年に6例の新たなWest Nile neuroinvasive disease (WNND 神経侵襲性ウエストナイル病) 症例が確認され、初めてヒトからWest Nile virus (WNV) が無症候性の供血者から分離された。このヒト WNV の全遺伝子塩基配列を解析したところ、系統樹上でItaly-1998-WNV strain や近年欧州で分離された他のWNVと近縁関係にあり、トリでの毒性やウイルス感染力増強およびヒトでのアウトブレイク発生に関係する特性を示す、NS3-Thr249Pro mutationが獲得されていた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
37	黄熱	CDC/MMWR 2009; 59(02): 34-37; 2010 January 22	米国赤十字社はYF (yellow fever)ワクチン接種者には2週間の供血延期を求めているが、2009年4月10日、病院の血液バンク管理者は、血液製剤が供血4日前にYFワクチンを接種した米国軍訓練兵89名から(3月27日に)集められた事に気が付いた。本報告では、供血延期の過失を特定し、輸血に関連したYFワクチンウイルス感染かどうかを決定するために、病院とCDCによって行われた調査を概説している。迅速な回収に関わらず、6ユニットの血液製剤が5人の患者に輸血された。臨床所見や重篤な有害反応を示す検査値の異常は、輸血後一月以内においては、4人の輸血者には見られなかった。5例目は前立腺癌および輸血依存性末期のB細胞性リンパ腫患者であり、ホスピスケアを受け亡くなった。生存者4例のうち3例はYFワクチンウイルスの血清学的反応が検出された。本報告は、輸血に関連したYFワクチンウイルスの感染が起こる根拠を示し、かつ慎重なスクリーニングと直近にワクチン接種したヒトの供血延期の必要性を強調している。
38	デング熱	FOCUS Information Agency 2009 November 19	メキシコでは、2009年10月末から11月初めにかけて大雨に見舞われた州でデング熱のアウトブレイクが起こり、これまでにデング熱の疑い105,000例が報告され、そのうち50,000例が確定診断された。前年の29,000例と比較し、2009年はより多くのデング熱症例が報告されている。
39	デング熱	People's Daily Online, Xinhua News Agency report; 2009 September 11	スリランカではこれまで(2009年9月11日)にデング熱症例数が25,606に上り、249例が死亡したと報告された。2008年の1年間ではデング熱4,156症例、死亡85例のみであったことから、急増を示しており、保健当局は、流行の原因となる蚊の撲滅キャンペーンを余儀なくされている。WHOは世界人口の2/5である250億人がデング熱のリスクに曝されており、世界では毎年5,000万のデング熱感染症例が推定されていると述べている。
40	デング熱	ProMED-Mail 20090706.2425	ブラジル Mato Grosso州ではデング熱症例数が週に約2,000例増加し、憂慮すべき状況であり、2009年6月28日に公表された疫学広報から36死亡例も明らかにされた。市町村はデング熱危機管理計画による監視・措置対策を継続する。SES(state Secretariat of Health)によると、2009年は196%のデング熱症例の増加が報告された。2008年1-6月ではデング熱症例数は10,111例であり、2009年では既に同一期間に29,977症例が報告された。
41	デング熱	ProMED-Mail 20090907.3144	ブラジルBehiaでは、2009年1月1日-8月22日のデング熱症例数(103,788)は2008年の同時期に報告された症例数(34,125)と比べて約3倍であった。この増加は、Behiaの市町村でデング対策を中止したことによるとの報告がある。
42	デング熱	ProMED-Mail 20090915.3240	ブラジルMato Grossoでは、2009年9月9日現在、36,563例のデング熱症例が報告され、このうち重症は1,093例、死亡は総数で34(確定症例は28例)であった。2008年の同時期(2008年1月1日-9月9日)と比べると250%の増加である。
43	デング熱	ProMED-Mail 20090928.3393	ブラジルDouradosでもデング熱が勢いを増しており、2009年1月1日-9月18日では、964例の疑い症例が報告され、確定症例は705例であった。2008年の報告症例数(232例)と比べると312%の増加であった。
44	デング熱	ProMED-Mail 20091020.3609	ブラジルUberabaではデング熱397症例が報告され、2008年には74例であった確定症例は167例であった。1例はDHF(Dengue hemorrhagic fever:出血性デング熱)であったが、回復した。
45	デング熱	ProMED-Mail 20091021.3625 [1]	ブラジルCampo Grandeにおける2009年の10ヶ月の間のデング熱症例数(661例)は2008年1年の総数(211)より213%上回った。2009年にはDHF(Dengue hemorrhagic fever:出血性デング熱)は20例が報告され、これに対し、2008年では1例のみであった。
46	デング熱	ProMED-Mail 20091021.3625 [3]	ブラジルRondonopolisでは2005年のアウトブレイクの後、2009年に再びデング熱の症例数が非常に多くなっている。2009年1月1日-10月16日では837例のデング熱症例が報告され、これに対し2008年の1年間では確定症例は42例であった。
47	デング熱	ProMED-Mail 20091111.3898	メキシコにおいて2009年では35,000を超えるデング熱症例が報告され、これは2008年に比べて40%の増加である。10月の間に、10,000例であった症例数は最初の2週間で25,929例となり、月の終わりまでに35,000例となった。ワクチンは2014年に接種可能となる予定である。
48	デング熱	Saigon Giai Phong (SGGP) Daily 2009 October 25 2009	ベトナムでは2009年9月中に死亡14例を含む17,140例のデング熱症例が報告された。2009年の初めからではデング熱症例は74,242例に上り、前年の同時期より16.8%増加している。総計で58例が死亡しており、これに対して前年は6例であった。首都ハノイでの感染数は8,000例と国内で最も高く、前年の15倍に上り、また過去10年で最も大きなアウトブレイクである。
49	デング熱	Voices from El SalvadorWorldPress 2009 September 16	エルサルバドルでは2009年9月で2,431例のデング熱を確定し、2008年の927例より顕著に増加している。厚生省(Ministry of Health)は適切な治療薬の処方や症例の登録といった決まった手順に従うことが重要であるとし、後者は特に流行地域の特定に重要である。また、出血性デング熱により3例が死亡しているが、2008年では死亡例はなかった。
50	ウイルス感染	Eurosurveillance 2009;14(50): pii=19446	2009年8-9月、イタリアにおいて脳髄膜炎と診断された発熱および神経的特徴を伴うびまん性大B細胞性リンパ腫患者に、USUV (Usutu virus)の神経侵襲性感染が認められた最初の報告である。脳脊髄液はUSUV陽性であり、USUVはRT-PCRおよびシーケンスにより血清および血漿で検出された。ウイルス遺伝子のプレメンブレンおよびNS5領域の部分シーケンスはUSUV ViennaおよびBudapestに類似していた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
51	ウイルス感染	Eurosurveillance 2009;14(50): pii=19448	2009年8-9月、イタリアにおいてOLT (orthotropic liver transplant) を行った患者に認められたUSUV (Usutu virus)関連疾病の症例報告である。移植後、患者は脳機能の顕著な欠損を伴った神経侵襲性疾患と考えられる臨床症状に至った。USUVは手術直前に採取した血漿サンプルからVero E6細胞中に分離され、USUV RNAはRT-PCRおよびシーケンシングによって検出された。本報告により、ヒトにおいて蚊媒介性フラビウイルス関連疾患が起きる局面が広がった。
52	ウイルス感染	ProMED-mail 20091024.3663	中国では、2007年に80,000頭を超えるブタを死亡させたブタの流行病であるPRRS (Porcine reproductive and respiratory syndrome :豚繁殖・呼吸障害症候群)が5地域で出現したと発表された。しかし、2009年10月の時点では、今年は国内のブタ疾患全般について落ち着いており、高病原性であるPRRSは顕著に減っていると報告された。2009年10月20日までに3,300頭弱のブタがPRRSで死亡し、7724頭が処分された。
53	ウイルス感染	ProMED-mail 20091024.3669	中国農務省 (China Ministry of Agriculture)は、北部におけるブタの大規模なアウトブレイクが報じられたが、事実ではないと発表した。当局は、この報告を調査するため当該地域にチームを派遣し、2009年10月20日までに、31地域のうち5地域がPRRS (Porcine reproductive and respiratory syndrome :豚繁殖・呼吸障害症候群)のアウトブレイクを報告した。
54	BSE	Schweiz Tierheikd 151; 433-436	スイスにおいて、BSE (bovine spongiform encephalopathy)を発症したウシの仔(グループA)に、血漿中PrPres (protease-resistant prion protein)が産生されているかを調査し、また、健常ウシ(グループB)と陽性頻度を比較した。グループAはBSEを発症したウシの仔181頭、グループBは2001-2006年にBSE症例のないスイスの健常ウシ240頭で成っている。すべての血漿はAlicon PrioTrapを用いて評価された。仔181頭中29頭(16.1%)は血漿中PrPres陽性であり、母ウシがBSEを発症する1年以内に生まれた仔は、母ウシ発症の1年以上前に生まれた仔より、PrPres陽性血漿の頻度は顕著に高く、健常ウシでは240頭中10頭(4.2%)であった。PrPres はウシ血液中に検出可能であり、健常ウシ群よりBSE発症ウシの仔により高頻度で検出された。
55	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 15(39) 2009 October 22	米国AABBのTTD(Transfusion Transmitted Diseases) CommitteeがAABBのBoard of Directorへ提出したTSE (Transmissible Spongiform Encephalopathies)の現状と輸血の安全性に関する報告書である。これまで、vCJDを発症した3例からの輸血によってvCJDプリオンが伝播した4例の報告がある。そのうち、3例はvCJD発症に至り、他の要因で亡くなった1例は脾臓およびリンパ節からvCJDプリオンが検出されたが、vCJDの兆候を示さなかった。その患者はプリオン遺伝子の129番目コドンがヘテロ(MV)であった。また、vCJDを発症したドナーから血漿分画製剤を投与された患者に、vCJDプリオンが検出されたが、この患者もvCJDの兆候はなかった。米国FDAは2009年6月に、米国内供給された血漿製剤給血者のvCJD伝播のリスクに関する新しいモデルをTSE Advisory Committeeで発表したが、最大推定リスクは1/12,000のままであり、米国患者のリスクは「極めて低い」としている。しかし、MVもしくはVV遺伝子型である無症候患者から病原性プリオンが検出されたことから、非MM遺伝子型患者にvCJD症状が現れるか、非MM遺伝子型患者はvCJDプリオンの感染キャリアーとなるかについて解決が待たれる。
56	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biologicals 2009; Available Online 1- 3 2009 November 19 (doi:10.1016/j.biolo gicals.2009.10.018)	感染性プリオンタンパクの除去を目的とした孔径15nmのウイルス除去フィルターの評価を行った。フィルター濾過前にアンチトロンビンサンプルに異なる二つの方法で調整されたプリオンサンプルをスパイクした。動物を用いたバイオアッセイによるLRF (log reduction factor)は、2回の独立した濾過において ≥ 4.72 および4.00であった。しかしながら、感染性は15nmフィルター濾過したサンプルの超遠心分離後の沈殿物と上清の両者に検出され、完全除去は困難であることが示された。本データは、感染性プリオンタンパクの一定量は直径15nmより小さい、かつ(もしくは)可溶性であるとの結論を提示している。
57	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2009; 374; 2128-2128	2008年6月、30代男性が13か月に亘る人格変貌、進行性の不安定および知的衰弱にて入院し、2009年1月に死亡した。病歴においては、へんとう摘出術および頸部リンパ節摘出以外、輸血および他人からの臓器移植を受けていなかった。患者PRNP (prion protein gene)のコードン129には疾病と関連が知られている変異はなく、ヘテロ接合体であった。vCJD (variant Creutzfeldt-Jakob)との診断は、臨床症状と進行、MRI所見、他の診断を排除した結果なされ、また、孤発性CJDは不相当と判断された。ヒトPRNPのコードン129における多型がプリオン病の大きな感受性因子となっており、これまでのvCJDでは全症例がメチオンinホモ接合体であった。
58	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20090806.2783	<ul style="list-style-type: none"> ・英国National CJD Surveillance Unitによる2009年8月3日現在の月間統計によると、前回の報告から変動はなく、英国内vCJDの確定および疑いのある患者につき、死亡例は164例、生存者4例の総数168例である。 ・フランスInstitut de Veille Sanitaireによる2009年8月4日現在の月間統計によると、前回の報告以降、仏国内で疑い1例のvCJD患者が確定診断され、1例の疑い例が報告された。 ・英国ではこれまでに輸血に関連したvCJD感染は4例報告されており、このうち3例にvCJDの症状が現れた。4例はすべて1996-1999年に白血球除去されていない赤血球輸血を受けた。2004年3月16日、英国当局は、1980年以降に英国で輸血を受けたヒトの献血を禁止している。 ・2009年8月のJournal of Virologyによると、英国において、スクレイピーに感染しているが臨床的には正常であるヒツジの乳中にスクレイピープリオンが分泌されたとの報告があった。重要なポイントとしては、ヒツジにスクレイピーの症状が現れるのに20ヵ月を要したが、プリオンはスクレイピー症状を呈するかなり前に乳中で検出された、という点であり、分泌物へのプリオン感染の広がり可能性は、プリオン病伝播の観点から重大である。

ID	感染症(PT)	出典	概要
59	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-Mail 20090908.3170	2009年9月2日現在、フランスにおけるプリオン病の月間報告によると、前回(2009年8月)の更新以降、疑いvCJD (variant Creutzfeldt-Jakob Disease)1例が確定され、他の疑いvCJD1例が特定された。2009年の最初の8ヶ月においては、939例が照会され、孤発性(sporadic)CJD39例、家族性(familial)CJD7例、医原性(iatrogenic)CJD2例、vCJD確定1例および疑い1例である。
60	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-Mail 20091005.3461	2009年10月1日現在、フランスにおけるプリオン病の月間報告によると、前回(2009年9月)の更新以降、疑いvCJD (variant Creutzfeldt-Jakob Disease)1例が確定され、2009年に確定されたvCJDの新しい症例は2例となった。2009年の最初の9ヶ月においては、1103例が照会され、孤発性(sporadic)CJD48例、家族性(familial)CJD8例、医原性(iatrogenic)CJD2例、vCJD確定2例である。1997年以降フランスで記録された確定vCJDは総数25例であり、全例亡くなっている。年齢中央値は37歳、全例がMet-Metホモ接合体と特定され、1例は頻りに英国を訪れていた。
61	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-Mail 20091024.3671	イタリア厚生省(Health Ministry)は、2009年10月23日に1例のvCJD(variant Creutzfeldt-Jakob Disease)様症例を報告した。国内記録は1993年に始まり、イタリアでは2002年に1例の既知症例のみが報告されている。今回の新しい症例は、動物飼料への肉骨粉の使用が禁止された2000年12月以前に感染したと考えられる。
62	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20091208.4183	<ul style="list-style-type: none"> ・英国National CJD Surveillance Unit(NCJDSU)による2009年12月7日現在の月間統計によると、vCJDの確定および疑いのある患者につき、死亡例は166例、生存者4例の総数170例である。2009年には2例の新しいvCJD症例が報告された。 ・フランスInstitute de Veille Sanitaireによる2009年12月1日現在の月間統計によると、2009年の11ヶ月間では1,348例の照会があり、孤発CJDは77例、家族性は10例、医原性は3例、vCJDの確定2例であった。 ・米国National Prion Disease Centerの報告では、2009年1月1日-11月7日、341例の照会につき198例がプリオン病であり、孤発CJDは133例、家族性は33例、医原性およびvCJD症例はなかった。 ・英国NCJDSUによる第17回2008年報告の概要が示された。2008年12月31日までに164例が確定もしくはほぼ確実なvCJDから死亡に至り、115例が神経病理学上確認され、疑い症例3例は生存していた(2008年12月31日)。vCJD症例の臨床、神経病理学および疫学的特徴はこれまでの説明と一致しており、また、vCJD発症のリスクファクターは年齢、英国在住、プリオン蛋白(PRNP)遺伝子129番目コドンのメチオニンホモ接合体を含み、遺伝子解析を行った臨床に影響のあったvCJD147症例全例はメチオニンホモ接合体であった。2008年にNCJDSUはvCJD疑いと判断する臨床症状を呈し、かつPRNP遺伝子の129番目のコドンがヘテロ接合体である最初の症例を照会され、今後、129番目コドンのヘテロ接合体における臨床例の発現や無症候性感染者の推定に意味を持つ。 ・ANCJDR(Australian National Creutzfeldt-Jakob Disease Registry)は1993-2006年にNew South Walesの海岸地域でCJD孤発例数が増加しているとの評価に至った調査結果を公表した。
63	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 97(3): 207-210	英国ではvCJD(variant Creutzfeldt-Jakob disease)症例における血漿分画製剤の投与歴を明らかにするため、英国NCJDSU (National CJD Surveillance Unit)が患者の親戚や診療機関および病院を通して集めた記録の調査が行われた。NCJDSUでは問い合わせのあった全vCJD症例につき、リスク要因となる情報収集を行っている。その結果、168例の英国内vCJD症例のうち9例がのべ12回血漿分画製剤の投与を受けていた(1例はvCJDリスクが起きる前の1970年であり、それ以外は1989-1998年であった)。英国CJD Incident Panelのリスク評価基準によると、11については低リスク製品であり、1つは低もしくは中程度のリスクであった。今日までの英国内vCJD症例はいずれに関しても血漿分画製剤投与による感染ではないと考えられたが、今後、vCJDを発症する可能性は排除されない。
64	モラクセラ	日本小児感染症学会第41回総会 (2009 November 14-15) 5-35 p.232	国内において、Moraxella nonliquefaciensによる1歳女児の肺炎症例が報告された。患者は39°C台の発熱および鼻汁・咳を主訴に受診し、胸部レントゲンで浸潤影を認め肺炎と診断された。計12日間の抗菌薬投与により軽快したが、入院時の血液培養検査よりグラム陰性単桿菌を検出し、遺伝子解析よりMoraxella nonliquefaciensと同定された。これはヒトの上気道の常在菌として知られており、本邦での報告は初例であると思われる。
65	大腸菌	ProMED-mail 20090923.3347	英国でO157大腸菌のアウトブレイクが発生し、Surrey牧場の動物6種の糞が陽性であった。VLA (Veterinary Laboratories Agency)は102サンプル中33に感染源であるO157種が検出されたと報告した。HPAによると、Godstone牧場と関連した症例総数は67-68例で小児が感染し、「安定もしくは改善傾向」の状態で入院している。White Post牧場の121サンプル中51にはVTEC (verocytotoxin producing大腸菌) O157が推定され、ウシおよび仔ウシ(公衆との接触はない)、屋内のヒツジおよびヤギに検出された。Godstone農場および姉妹農場も衛生対応が不十分であるため閉場した。White Post農場は2名の来場者に同種の大腸菌が確認された後、閉場した。
66	大腸菌	ProMED-Mail 20091103.3794	米国CDC (Centers for Disease Control and Prevention)は牛挽肉に大腸菌O157のアウトブレイクが起きた後、12州の28例に感染が認められたと報告した。このうち16例は入院し、3例は腎障害に至り、2例は感染後死亡した。USDA(US Department of Agriculture)はNew York, Ashvilleの農場が大腸菌が混入した疑いで大量の牛挽肉を回収した事を公表した。回収対象商品は小売業者に納品されており、また、正確な対象商品はUSDAのウェブサイト上で公開されている。USDAのFSIS (Food Safety and Inspection Service)は、牛挽肉につき、有害細菌を死滅させる加熱(71度)処理をするよう通知した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
67	炭疽	ProMED-Mail 20090725.2629	インドKoraput村でウシ由来の疾病である炭疽病が起り、今年(2009年7月24日現在)は56例が感染し、公式の死亡は3例(非公式には4例)が報告されている。インド政府の報告によると、感染者数/死亡例数は各々、2004年:11/3, 2005年:39/5, 2006年:18/41, 2007年: 64/11, 2008年: 68/8であった。炭疽病は、村人達が加熱不十分の牛肉を食べたことで広がっている。
68	炭疽	ProMED-Mail 20090813.2886	ウズベキスタンのTashkent地域Toytepaの町で、炭疽病により13-15例の死亡が伝えられた。2009年8月3日に死亡した男性は、近隣者が所有するウシが病気と知りながら屠殺後販売したため、その肉を食べ感染した。20人以上が罹患し、10人以上が死亡したが、感染者には病気のウシの内臓によって汚染された水中で泳いだ子供数人も含まれていると伝えられている。公式報告では、この男性が、今年報告された初めての炭疽病症例であり、最初の死亡例である。
69	炭疽	ProMED-mail 20090903.3104	2009年8月31日、オーストラリアVictoriaの北東で1頭の雌牛が炭疽病により死亡し、検疫が実施されている。このTatura-Stanhope地域にある農場は、これまでに炭疽病感染歴があり、畜牛は予防接種済みであった。DPI (Department of Primary Industries)は、感染は続くと考えており、群れは検疫下に置かれ、隣接地での予防接種や必要な措置が執られている、と報告している。
70	炭疽	ProMED-Mail 20090907.3156	ケニアNyeriでは炭疽病による男性1名の死亡が確認された。Kitengela およびOngata Rongaiでは売られている肉が炭疽病、口蹄疫および東海岸熱(east coast fever)に汚染された可能性があり、調査の結果、病気もしくは死亡したウシが沿道で屠殺され、近隣の地域にアウトブレイクをもたらした事が明らかとなった。
71	炭疽	ProMED-mail 20090908.3173	2009年9月7日、DPI (Victoria Department of Primary Industries)は、オーストラリアStanhope knackeryで2番目の炭疽病症例発生という結果を受け、更なる警戒を急いでおり、感染地の拡大およびヒトへの感染が懸念されている。DPIはこの乳牛と接触のあった7頭の焼却処分の監視を行った。当局は、炭疽病が疑われた場合の報告と死体を移動せずに炭疽病検査をするよう生産者へ要請しており、また、感染元および近隣地での予防接種を援助する予定である。DPIの獣医師は、予防接種は免疫を100%保証するものではなく、また、ヒトへの感染はほとんどないが、感染した死体を処理した作業者が入院した例はある、と述べた。
72	炭疽	ProMED-mail 20091006.3468	Stanhope農場の6名はDPI (Victoria Department of Primary Industries)の代表者と会合を開き、地域で発生した炭疽病のアウトブレイクについて議論を交わした。DPIは、炭疽病感染した死体は、診断がなされた時にあった場所のできるだけ近くで焼却される、とした原則を農場主に伝えた。DPIは、動物が死亡した場所で、死体を移動する前に、炭疽病の死体検査を行うことを優先事項としている。
73	結核	ProMED-mail 20090711.2479	2009年7月11日、ニュージーランド北島のKaitaiaの乳牛群でウシ結核(TB)感染が確認された。この1頭の雌牛の感染は、AHB (Animal Health Board)による3歳群の定期結核検査において検出され、屠殺された。輸出先の市場はTB-free製品を望んでおり、この感染確認は乳牛産業に警鐘を鳴らしている。AHBは、野生動物への感染拡大防止が第一優先であり、ウシ感染源は特定されていないと述べ、群れの再調査および畜牛の移動の経緯を調査中である。
74	セラチア	Arch Intern Med 169(18): 1705-1711, 2009 October 12	米国の数州における医療機関で生じたSM(<i>Serratia marcescens</i>)の血液感染(BSI)集団を調査し、ある製造業者由来の汚染されたヘパリン・生理食塩水充填シリンジが原因であるかを決定付けるために、2007年10月-2008年2月における入院および外来患者のアウトブレイクを調査した。SM BSIが陽性の場合には、SM血液はCDC(Centers for Disease Control and Prevention)へ送られ、また、SM混入を調べるため、医療機関およびCDCによって複数ロットのヘパリン・生理食塩水充填シリンジから培養試料が作られた。シリンジと血液から分離されたSMはpulsed-fieldゲル電気泳動によって比較された。7州からCDCに提出された83例のSM血液のうち、70例(84%)は当該シリンジから分離されたSM系統と遺伝的に一致した。FDAの査察により、この製造会社は品質システム基準を遵守していないことが明らかとなり、複数の州でアウトブレイクとなったSM BSIは充填シリンジの内因性汚染と関係していることが明らかとなった。
75	コレラ	日獣会誌 2009; 62 709-712	2007年6月、沖縄県石垣市で黒毛和種の子牛が出生直後から下痢を呈し、血便を伴い死亡した。主要臓器からVibrio choleraeが分離され、血清型別よりO135と同定された。分離菌はコレラエンテロトキシンは産生しなかったが、病原遺伝子であるhlyAおよびtoxRを保有していた。疫学調査では、当該牧場の環境由来材料からはV.cholerae O135は検出されず、周辺離島の沿岸域の海水検体からO14, O19, O27およびO170のV.choleraeが分離された。
76	梅毒	WBT Insider, Associated Press (AP) report; 2009 August 29	米国Forsyth Countyの保健当局は、梅毒のアウトブレイクへの阻止を講じている。今年(2009年)報告された性感染症の140例は2008年中に報告された症例の3倍以上であり、当局職員らが症例の集団が存在している隣接州(North Carolina)を渡りながら梅毒およびHIVの無料検査の提供を伝えた。
77	Q熱	GDC/Traveler's Health in the News 2009 December 16	米国CDC (Centers for Disease Control and Prevention)はオランダでのQ熱情報を公表し、渡航者への注意喚起を行った。オランダでは2009年11月25日までにQ熱2,293症例が確認され、うち6例は死亡した。Q熱は感染した家畜からヒトへと伝播する病気で、感染リスクは低い、オランダへの渡航時に従う注意事項(感染地域では農場を避けること、殺菌された牛乳・乳製品を口にする、動物の近くに滞在する場合には石鹸による手洗いを励行すること)が示された。また、発病は曝露から2-5週後であり、帰国後受診する場合には、医者にオランダ渡航を告げるよう示された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
78	バベシア症	PHAC CCDR Weekly 2009 October 30	2009年10月30日、カナダPHACは、輸血を介したバベシア症感染を防止する血液スクリーニングの必要性について報告したScience Daily (2009 October 20)の内容を掲載した。米国Rhode IslandにおけるTTB(transfusion-transmitted babesiosis cases)を調査するため、1999年1月-2007年12月に届出のあったバベシア症例と血液センターからの情報を基に、レトロスペクティブな研究を行った。当該期間中、346バベシア症例の報告があり、このうち21例はダニではなく輸血を介した症例と考えられた。赤血球輸血量(unit)に対するTTB症例は、当該期間全体では平均1/15,000であるが、2005-2007年では1/9,000であり、2007年にはRhode Island内で届出のあったバベシア症例報告の10%がTTBであった。
79	感染	FDA /CBER 2009 September 25	2009年9月25日、FDAは臍帯血から幹細胞を分離する企業として登録されているVista Cord,LLCが感染症伝播のリスクに対する適切な予防措置を行っていないとして通知を発出した。FDAが行っている査察により、Vista CordがFDAのHCT/P (human cells, tissues and cellular and tissue-based product)による規制に明らかに違反していることが明らかとなった。この結果、2009年9月24日にFDAはVista Cord LLCおよび社長に対してHCT/Pの製造中止を命じた。内容は: 1.FDA基準の遵守が到達されFDAから書面の交付があるまで、すべての製造を即時中止する 2. 2005年5月25日もしくはその日以降に回収した(この命令の後に会社が保有するもしくは受領した)HCT/Pの流通禁止 3.会社が保有する全HCP/TをFDAの要件に遵守して保存する
80	感染	FDA /CBER/Advisory Committees 2009 November 16-17	FDA Blood Products Advisory Committeeによる、2009年11月16-17日のミーティング開催予定の通知である。初日には、最新報告(血液の安全性および安定供給に関するHHS諮問委員会、デングウイルスのアウトブレイク、2009 A/H1N1パンデミックと血液の安全性・安定供給)を受け、メキシコ渡航に関連したマラリアのリスクにおける供血延期、Cerus社のINTERCEPT Blood Systemを使用した病原菌不活化ヒト血小板製剤の第Ⅲ相試験のデザインについて議論が予定されている。また、二日目には、供血者の血圧と脈拍の適格基準および家庭用HIVテストキットの必要性と性能の特性が議題となっている。
81	感染	HPA 2009; 3(29); 2009 July 24 [Surveillance of viral infections in donated blood: England and Wales, 2008]	2008年に英国イングランドおよびウェールズで行われた献血のウイルス感染調査の結果が報告された。疾患・渡航歴・血液感染リスクの増加と関連のある行為について関係が認められない成人供血者から献血が行われ、HBsAg (hepatitis B surface antigen)、HCV、HIVおよびHTLV(human T-cell lymphotropic virus)抗体、48検体分のプールについてHCVおよびHIV RNAを検査した。更に、供血者の経歴に応じてanti-HBc (antibodies to hepatitis B core antigen)、マラリア、Trypanosoma cruzi(シャーガス病)が検査された。2008年における結果は、16万2438献血のうち総計191例がウイルス感染陽性であり、79例(41%)がHBsAgに、71例(37%)がanti-HCVに、27例(14%)がanti-HIVに、14例(7%)がanti-HTLVに陽性であった。
82	感染	HPA 2009; 3(42); 2009 October 23 [Transfusion-transmitted infections reported to the NHSBT/HPA Epidemiology Unit in 2008]	英国では、TTI (transfusion-transmitted infections)調査が1995年10月に始まり、NHSBT (NHS Blood and Transplant)/Health Protection Agency(HPA) Center for Infections Epidemiology Unitによってまとめられている。2008年1月1日-12月31日までにTTIが疑われた33の報告のうち、4事例(全例が細菌感染)は本報告書に記載されている定義に従いTTIによると決定された。この4事例は血小板製剤の投与が行われた事例であった。24事例についてはTTIではないと結論し、(残りの5事例のうち)細菌感染の1報告は結論出来ず、他の2事例は血液ユニットが調査不可能なために確認できなかった。また、2事例(HBVおよびHCV感染)は調査中である。
83	感染	HPA 2009; 3(43); 2009 October 30	英国における血液および組織ドナーと輸血者の感染に関する第5回年報が示された。NHSBT(NHS Blood and Transplant)/Health Protection Agency(HPA) Center for Infections Epidemiology Unitが示した2008年度報告における要点的概要は、2008年の供血者に最も多く確認された感染症は梅毒であり、また、1996年以降HIV感染は徐々に増え、HIVセロコンバージョンも近年増加している。更に、妊婦についてNHSBTが検査した結果、2008年には再びHBsAg陽性者が0.35%に増加し、風疹に対する感受性も3.2%に増加した。なお、2008年に輸血を介した細菌感染は4事例であり、6例の輸血者の輸血感染が報告された。
84	感染	ProMED-mail 20090831.3064	2009年8月30日、インドSanjay Gandhi医科学大学院は粗悪輸血から肝炎ウイルスが検出されたと政府当局に報告をし、またFDAにも報告があった。血液は不正に運営されていた民間療養施設から押収され、非常に質が低く、ヘモグロビンは極低レベルであった(量を増すために、血液に生理食塩水を混ぜていた)。この感染血液は病院で患者に供給されており、2年以上に亘り、100,000unitが販売された。
85	感染	TGA Biologicals Framework Newsletter, Issue 2 2009 December	豪TGAは2009年11月25日にTherapeutic Goods Act 1989の改訂法(The Therapeutic Goods Amendment (2009 Measures No.3) bill 2009)を国会に提出した。改訂法のChapter 3の新規part 3-2A Biologicalsに従い、生物学的治療製品を規制する新しい骨子(Biologicals framework)が規定された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
86	感染	Google News 2009 December 18	<p>2009年12月18日、臓器提供者から少なくとも1人の臓器移植者に極めて珍しい感染が認められ、初のアメーバ(<i>Balamuthia mandrillaris</i>)のヒト-ヒト感染が報じられた。11月にUMMC (University of Mississippi Medical Center)で神経障害で亡くなった患者から臓器提供を受けた4例のうち、2例は重症(それ以外は無症状)であり、GDCは1例に<i>Balamuthia mandrillaris</i>を確認した。この微小寄生虫は土壌で発見され、ヒト、ウマ、イヌ、ヒツジおよび霊長類に脳炎を引き起こす。免疫抑制状態にある臓器移植患者では危険な寄生虫である。ヒト感染は極めて珍しく、1990年の発見後、世界で150例のみが報告されている。</p>